M－1

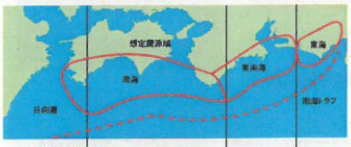
明日、起こるかもしれない！ 南海トラフ巨大地震

●東日本大震災（宮城県・仙台市荒浜地区）

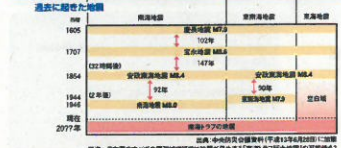
多くの尊い命が失われ、甚大な被害をもたらした東日本大震災。本県においても、南海トラフの巨大地震の発生が懸念されています。いつ起こるかわからない南海トラフ巨大地震に備えて、まず地震や津波について知り、今からできる備えを始めて下さい。日頃からの心構えが、あなたの命、家族の命を守ります。

南海トラフ巨大地震はいつ起こる？

南海地震は100年から150年の周期をもって繰り返し発生し、徳島県に大きな被害をもたらしてきました。前回の南海地震が、1946年（昭和21年）に発生していますので、今世紀前半にも発生する可能性があります。南海トラフ巨大地震は、南海地震の震源域を含む広い範囲で発生する最大クラスの地震・津波を想定したもので、発生すれば広範囲に及ぶ甚大な被害をもたらすことが考えられます。



過去に起きた地震



出典：中央防災会議資料（平成13年6月28日）に加筆

東海～日向灘のすべての震源域で同時に地震が発生する「南海トラフ巨大地震」の可能性も？

解説

昭和南海地震は、1946年12月21日4時19分頃、潮岬の南50km位のところ（北緯32度56分、東経135度51分）、深さ24kmを震源とするマグニチュード8.0の地震でした。徳島県内では、死者202人、全壊家屋602戸、津波による流失413戸など、大きな被害をもたらしました。この地震による揺れは、沿岸部で震度5、内陸部で震度4、余震は月内に有感55回、無感230回が観測されています。

津波によって打ち上げられた船（橘町南旭地区　昭和期）

南海トラフの地震の発生確率

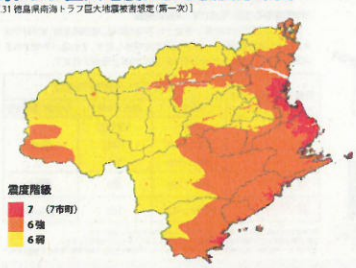
南海トラフの地震の長期評価　【H26.1.15地震調査研究推進本部公表】

地震規模	M8～9クラス
30年以内の発生確率	70%程度

南海トラフ巨大地震はどんな地震？

南海トラフ巨大地震による震度分布図

【H25.7.31 徳島県南海トラフ巨大地震被害想定（第一次）】



長く続く強い揺れ

南海トラフ巨大地震は、大陸プレートの境界にできた南海トラフという溝の周辺が震源となって発生します。

想定される揺れの大きさは震度6弱～震度7で、身動きが取れない揺れが長く続くと考えられています。

屋内では、テーブルや机の下に入って身を守りましょう。屋外では、倒壊する恐れのあるブロック塀などから離れ、落下物から頭を守りながら頑丈そうなビルや広い公園などに避難しましょう。慌てず、落ち着いて行動してください。

地震と津波の複合災害

非常に強い揺れによって、建物が倒壊したり、土木構造物が被害を受けたりします。さらに、そこに高い津波が襲ってきます。つまり、「地震災害」と「津波災害」の2つの災害を同時に受ける「複合災害」となるのです。

たとえ沿岸部に住んでいなくても、旅行や仕事で偶然居合わせることもないとはいえません。

M－2

徳島県津波浸水想定

【H24.10.31 県公表】

「津波浸水想定」について

●平成24年8月29日に国が公表した「南海トラフの巨大地震」の震源モデルをもとに、県管理河川の地形状況を含む最新の地形データなどを反映させた徳島県の最終的な「津波浸水想定」です。

●最大クラスの津波が悪条件下※において発生した場合に想定される浸水の区域と水深です。

●過去の津波や今後発生が想定される津波から設定したもので、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。

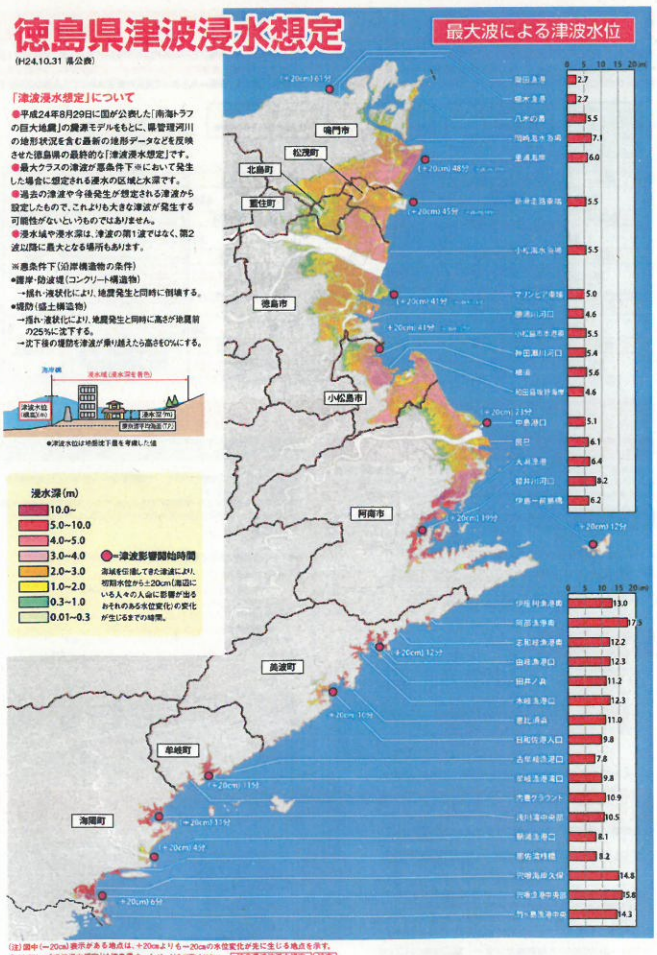
●浸水域や浸水深は、津波の第1波ではなく、第2波以降に最大となる場所もあります。

※悪条件下（沿岸構造物の条件）
●護岸・防波堤（コンクリート構造物）
→揺れ・液状化により、地震発生と同時に倒壊する。
●堤防（盛土構造物）
→揺れ・液状化により、地震発生と同時に高さが地震前の25%に沈下する。
→沈下後の堤防を津波が乗り越えたら高さを0%にする。

●津波水位は地盤沈下量を考慮した値

浸水深（m）
- 10.0～
- 5.0～10.0
- 4.0～5.0
- 3.0～4.0
- 2.0～3.0
- 1.0～2.0
- 0.3～1.0
- 0.01～0.3

●津波影響開始時間
津波を伝播してきた津波により、初期水位から±20cm（海辺にいる人々の人命に影響が出るおそれのある水位変化）の変化が生じるまでの時間。



（注）図中（－20cm）表示がある地点は、＋20cmよりも－20cmの水位変化が先に生じる地点を示す。

●より詳しい「津波浸水想定」は徳島県ホームページをご覧ください。　徳島県津波浸水想定　検索

M－3

津波からの避難に備えよう！

津波避難の心得!!

津波から身を守るには、とにかく避難が第一です。いざという時に、しっかりと避難行動がとれるよう、以下のことに注意しましょう。

「早く・近くの・高いところへ」

◆ 津波避難のタイミング

海岸で地震の揺れを感じたら、
「津波警報・注意報」を待たずに**直ちに避難！**

地震の揺れを感じなくても、
「津波警報・注意報」が発表されたら、
直ちに避難！

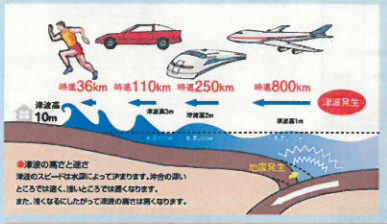
◆ 避難する（した）際の留意事項

周囲の方にも声をかけて、**一緒に避難！**

安全が確認されるまでは、避難場所から帰らない！

津波を知ろう!!

海の底で大きな地震が発生すると海底が上下に変動し、その動きが海水に伝わり津波が発生します。



猛スピードで海岸に迫ってきます。
深いところではジェット機なみ、陸上でもオリンピック短距離選手なみのスピードで押し寄せてきます。

海岸に近づくほど高くなります。
後ろの波が前の波に追いつき、どんどん高くなります。
狭い湾や入り江などでは、特に高くなります。

繰り返し襲ってきます。

最初の波が一番大きいとは限りません。
長い場合は、6時間以上にも渡って何度も繰り返します。
1日以上にわたる場合もあります。

引き波で始まるとは限りません。
地震発生のしかたによって、いきなり押し寄せることがあります。

普通の波と違い、膨大な力で襲ってきます。
高さが20センチを越えると、条件によっては、人が流される場合があります。

■日頃から、避難場所や避難経路を確認しましょう！
ラジオや、防災行政無線・広報車などの情報に注意しましょう。

■津波に関する統一標識

■津波注意

地震が起きた場合、津波が来襲する危険のある地域を表示。

■津波避難場所

津波に対しての安全な避難場所（高台）の情報を表示。

■津波避難ビル

津波に対しての安全な避難場所（津波避難ビル）の情報を表示。

■津波警報等の種類（平成25年3月運用開始）

津波による災害の発生が予測される場合には、地震発生後、約3分で大津波警報、津波警報または津波注意報を発表します。その後、「予想される津波の高さ」、「津波の到達予想時刻」等の情報が発表されます。

警報・注意報の分類	予想される津波の高さ		
	発表基準	数値での発表	巨大地震の場合の表現
大津波警報	10m～ 5m～10m 3m～5m	10m超 10m 5m	巨大
津 波 警 報	1m～3m	3m	高い
津波注意報	20cm～1m	1m	（表記しない）

例：3mから5mの間の津波が予想されたら「予想される津波の高さは5m」と発表します。
注意：津波の高さとは、平常の海面から、津波によって海面が上昇したその高さのことです。
マグニチュード9を超える巨大地震の場合は、「巨大」、「高い」という言葉で発表して非常事態であることを伝えます。

M－4

日頃の備えと意識で被害は減らせる！

徳島県では、南海トラフ巨大地震が発生したときの「人的・建物被害」の様相を市町村別に明らかにし、地域ごとの効果的な対策を検討するため、被害想定（第一次）を作成しました。併せて、被害軽減効果の試算も行い、建物耐震化率を100%に引き上げれば、建物倒壊による死者を約9割軽減でき、さらに全員が発災後すぐに津波からの避難を開始すれば、津波による死者も約8割軽減できることが示されており、県民一丸となって減災対策を進めていく必要があります。

まず、"強い揺れ"への対策を！

家屋の耐震対策はだいじょうぶ？

大きな地震では、家屋の倒壊等の危険があります。行政の支援する「耐震診断」や「耐震改修」の補助制度を利用して、住まいの耐震性を確保しましょう。※各制度を利用するためには、一定の要件を満たす必要があり、市町村により内容が異なります。お住まいの市町村でご確認下さい。

耐震診断

耐震診断とは？
地震時または、大規模な地震に対してどの程度の安全性があるかを判定するものです。
耐震診断費用：地盤・平面図・壁の配置・柱の配置・柱の太さなどについて現地調査をせずに、上部構造の図面を簡単に作成します。

まず耐震診断を受けましょう!!

自己負担３千円です!! ※一部の市町は無料または半額です。

お住まいの市町村にお申し込み下さい!!

耐震改修・建替

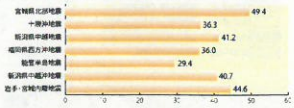
部分的な補強をして命だけは守りたい	本格的な耐震改修工事をしたい	思い切って建て替えたい
住まいの安全・安心なリフォーム支援事業	耐震改修支援事業	とくしま耐震建替市場ローン利用
	耐震構造安全性判断制度による	住宅ローン減税

くわしくは、徳島県住宅課建築指導室 088-621-2598へ

家具類の転倒を防こう！

近年発生した大きな地震でけがをした原因は、30%～50%の人が家具類の転倒・落下によるものでした。
家具類の転倒・落下により、家具類の下敷きになったり、避難路となる出入口がふさがれたり、割れた食器やガラスでけがをするなど、多くの被害が発生しています。

近年発生した地震における家具類の転倒・落下が原因のけがの人の割合



家具類の転倒防止器具には、家具を家具壁に固定するL型金具や、家具間土を連結する金具など、色々な種類があります。このような器具は、ホームセンターや建材店、金物店などで販売しています。

体験しよう・学ぼう・考えよう

災害体験・学習を通して、災害に対する正しい知識を身につけましょう。

徳島県立防災センター もしもの時の、身の守り方を体験しながら学習できます。

徳島県立防災センター（フジグラン北島　西隣り）
住所　〒771-0204　徳島県板野郡北島町鯛浜字大西165
電話088-683-2000／FAX088-683-2002
メール　bousaijinzaikuse@pref.tokushima.lg.jp
HP　http://anshin.pref.tokushima.jp/bousai/

県南部地域の「命の拠点」
徳島県立南部防災館
～高めよう！防災意識と地域のきづな～

徳島県立南部防災館
〒775-0101　徳島県海部郡海陽町浅川字西福良43番地
電話　0884-73-2211／FAX　0884-73-4575
メール　sdpp@town.kaiyo.lg.jp
HP　http://www.pikara.ne.jp/nanbubousai/sdpp/index.html

●発行　徳島県防災人材育成センター　電話088-683-2100

平成26年3月